

# 兒童心理學 (第十講)

牛 島 義 友

## 智能優秀兒の問題

智能の劣つた子供には問題があるが、優れた子供には問題等無いと考へられてゐる。併し彼等にて問題が無い譯ではない。優秀な素質が磨かれずに放置されてゐる事は人的資源の濫費であるし、又子供自身も智能が高過ぎて社會生活がうまくいつてない場合もある。

先づ優秀兒とはどの位あるものであらうか、智能指數で考へれば百三十以上の者は二・四五%あり百五十以上の者は〇・〇九五%即ち千人に一人位ある。(鈴木氏の研究)百五十と言へば十歳の子供で頭は十五歳の子供と等しいと言ふのであるから大した優秀さである。斯る子供が千人に一人、日本人一億の中に十萬人居るにすれば甚だ心強い譯である。併しこの數字は推定であるから、もう少し確實に優秀兒を數へ上げる必要がある。其爲に一人々々の子供を智能検査してゐる必要がある。ターマンはロスマンゼルス、桑港邊の十六萬八千名の兒童の中から優秀兒を數へ上げてを

り、鈴木氏は大阪市の三十五萬の兒童の中から數へてゐる、斯る結果は單なる推定ではないので、興味ある數字である。次に表示してみよう。之でゐる三百八十五以上の者は極めて稀であり、二百が頂點であると言ふ事が出来る。

鈴木	ターマン	I. Q.
1	1	200
1	0	195
1	2	190
2	2	185
4	10	180
9	8	175
13	20	170
35	27	165
79	43	160
138	64	155
265	134	150
425	150	145
	160	140

ゴールトンは偉人は四千人に一人位の割合で現れると言つてゐるが、四千人に一人位の者は智能指數から言ふと百六十五から百七十位から以上の者に當る事になる。尤も智能指數の高い者が其儘偉い人になると言ふ様な事は絶対にないが、ターマンとコックスが過去の偉人の智能の推定をなし

てゐるが、其平均は百五十七歳となつてゐて、相當に高い。

尙序にこの研究に於て最も智能が高いと推定された十名をあげる。ジョン・ステュアート・ミル、ゲーテ・ライブニッツ、グロテ・イウス、マコレー、ベンサム、バスカル、シェリング、ハラー、クルルリッヂ、チャタートンとなつてゐる。

次に斯る優秀児の學校生活は如何になつてゐるであらうか、我邦に於ては早期就學や特別進級の制度が無いので、如何に優秀な智能の者も、其他の者と一緒に就學し、同一歩調で勉強してゐる。米國に於ても年齢よりもほんの少し上級の學年に編入されてゐて、其精神年齢から言へば遙かに低い學年に止つてゐる。

次に學業成績を普通の兒童と較べてみる。ターマンの研究では優秀者が非常に優れる學科（普通兒童と成績の差の大きい學科）は討論、歴史、作文、文學、古代史、文法、理科等である。普通兒童と殆ど差のない學科は商業實習、運動、習字、手工、圖書等である。即ち言葉の學科が特に優れ、手の器用さ等に關したものでは差がない。數學等は中位で非常に差があるものではない。この點は學科成績のみならず、學科に對する興味をみても同様で、言語的な學科が特に好まれてゐる。故に智能の優秀な者は専ら言語的なものに優れると言ふ事が出来る。

幼兒の場合も早くから文字を覺えてゐる。文字の讀み方

を初めて習つた年齢を調べる。満一歳臺から始めてゐる者もあり、満四、五歳になる。殆ど皆習ひ始めてゐる。

斯る優秀児は家に歸つても學校の勉強を餘りせず、専ら課外の讀書をして楽しんでゐる。其讀書数は普通兒童の倍位である。例へば二ヶ月間の讀書數を示す。次の如くなる。

年 齡	男		女	
	優秀児	普通児	優秀児	普通児
6—7	9.3	0	11.5	0
8—9	12.4	4.6	15.2	5.6
10—11	14.7	7.3	15.6	8.7
12—13	12.8	5.8	16.5	7.7
14—15		7.5		9.3
人 數	272	403	23.9	405

又其書物の種類も知識的小説、自然物語、歴史、科學に關した者が普通兒童より多く、冒險小説感情の小説は普通兒童より少くなつてゐる。

次に斯る子供や偉人は一般に多才であつて、唯一つの方面で優れるばかりでなく、色々な方面で才能を發揮してゐる。其代表的なものは、ゲーテ、フランクリン、グ・ヴィンチ、リガレオ、ユーゴー、ボルテール等である。グ・ヴィンチの多才な事は今日餘りに有名になつた。併し偉人の中にも才能が一つに偏してゐる人もある。特に音樂家、美術家等には其専門だけで優れ、他の點は凡人同様な人がゐる。例へばモーツァルト、バレストリーナ、レムブラントの如く。

偉人や天才の性格に關しては古來色々な説がある。ロンブローゾは天才は氣狂は紙一重の關係にあると言ひ、又天才の中には性格異常者や變人、病人、不具者等も少くない。或時シーザーは面接を求めた客に對し、傲然と頭も下げなかつたので、ひさく相手の氣を損じた事があつたが、實は其際に彼は癲癇の發作を起してたのだと言ふ話が傳はつてゐる。不具者や環境不良者、私生兒等は劣等感に基く過度の補償作用によつて偉くなる事もある。斯る場合も性格は自ら歪められて來よう。

斯く偉人の中には常識外れの人もある様ではあるが、智能優秀な兒童に關する限り斯る事は餘りなく、一般に諸性質は圓滿に發達してゐる。又道徳性なごも普通常より遙かに優秀になつてゐる。

又身體的方面を見ても、頭のよい子供は虛弱である等の世評は誤つてゐる事が證明されてゐる。ターマンの比較研究によるに、優秀兒は普通兒に較べて出生常時の體重も重く、母乳豊富で、歩行言語始めの時も早く、睡眠狀態も充分であり、虛弱者少く、頭痛、風邪等も少くなつてゐる。

斯る故に智能の優秀な子供は性格や健康も亦優秀であつて、どこにも問題とする點が無い様である。

併し時には其社會生活がうまく行かなくて困つてゐる様な場合もある。一般に餘り智能の高い子供は仲間はずれを

する傾向がある。普通の集團で指導者になる子供は體の大きな人好のよい、勇敢で寛大な子供、智能は百十五乃至百三十位の者が最も多い。百三十以上で指導者になる事は少く、百六十以上で指導者になる事は殆どない。

或百九十の指數をもつた九歳兒の例を述べよう。彼は五年生だがまだ一度も指導者になつた事はない。否それどころか組の人から孤立してゐるので、問題兒として教育相談所に連れて來られた位である。智能検査の結果智能が非常に優れてゐる事が判つたので、特別の優秀組に編入させた。この組の平均智能指數は百六十四もある極めて粒よりの者の集りである。斯る組に入るご間もなく學級から出してゐる新聞の編輯者に選ばれ、やがて級長に推された。次の年には他の組との仕合には、主將として活躍する様になつた。即ち前には指導者にもなれなかつたのに、今度は指導者として愉快的學級生活を送る様になつてゐる。

斯る餘りに智能の高い子供は澤山の言葉を知つてをり、六ヶ敷い言葉を使ふので、普通の子供に意味が全く通ぜず、其爲に外國語を喋つてゐる様な感がする。一般の子供には彼の言ふ事が判らず、又彼には普通の子供の話が一向に面白くない。斯くして彼は孤立化して來るのである。

又學校の授業も斯る優秀兒には平易過ぎて一向に興味が出ない。従つて教室では話をしたり、他の事等をして遊ん

である。そのくせ先生から質問されるこ、ちゃん筋の通つた答へをする。それで何だか先生を馬鹿にしてゐる様な印象を與へ、生意氣だとか、授業を妨害すると言つて非難される事が多い。

外國では斯る場合上の學年に編入させる事によつて巧く解決させてゐる。我邦では斯る制度が無いからこの種の問題をもつた優秀兒の爲には特別の配慮をしてやる必要がある。

其後には課外の稽古事や勉強をやらせるのがよい。學校と同じ勉強を家でぎん／＼先の方までやつてしまふこ、一層學校での勉強が面白くなる。故に課外や家庭では學校の勉強と關係の無いもの、例へば繪とか音楽或は外國語等をやらすのもよい。又學校の勉強と平行して一層深く學習させる方法も適當である。新教育のやり方は大體これで、各人の能力に應じて、同じ學課目を或者は三だけ教へて、他の者には七まで、優秀な者は十まで學習出来る様に、學習計畫を樹て、各人に研究させる譯である。優秀な子供には斯の様に深い研究課題を先生が與へてくれるとよいし、それが無い場合には、家庭で課外讀物等で進んで勉強する様にすゝめるこよい。

又幼兒の場合には早教育とか、早く文字を教へる事が問題になる。智能が充分發達してゐる幼兒なら早教育をして

も子供に負擔をかけたり、過勞さす事はない。問題は早教育をするこ、學校に通ふ様になつてから學科に興味が持たなくて困る點である。

文字等は智能の優秀な子供なら教へなくとも一人で覺えてしまふ。この場合親の方から積極的に教へる必要はないが、子供が尋ねるのに對して教へる位の事はしてもよい。

但し早教育で一番問題なのは親が一生懸命になる事である。親はさうしても自分の子供を偉くしたいこの氣持が強い爲に子供の能力以上に教へる傾向がある。或は早教育をすれば平凡な子供でも優秀な子供になれると誤解する事が多い。一般に早教育論者は子供の素質の事を忘れて、早教育の結果子供が優秀な成績をあげたのだと論ずる。併し早教育に耐へられるのは智能の極めて優秀な場合のみである。

尙ほ知的な親の中には自分の子供が特に發育が遅れてゐるのでないかと餘計な心配をする人が多い。買ひかぶるのも困るが、餘り心配するのも無用な事である。斯る場合智能検査をして、正しい知識に基いて指導する事が何より大切である。